

ちとせ ふれあい ニュース

発行元 千歳町自治会
発行責任者 廣瀬 照雄
千歳町千歳垣根 一三三
TEL 二三・〇六八二

みんなで千歳町を元気に！

自治会長 廣瀬 照雄



師走を迎え、今年もあと僅かを残すばかりとなりました。今年も、新型コロナウイルス感染症拡大により私たちの生活状況が大きく変わってしまった年でした。自治会の行事は殆どが取り止めとなり、町民同士のふれあいの場が極端に少なくなり、本当に寂しい年でした。一方で台風などの大きな自然災害はなく、これまでの千歳町の美しい自然などが守られ、また、何よりも町民の皆様が健やかに過ごしていただ

年が暮れていくことに安堵しています。さて、千歳町においても年々少子高齢化が進み、現在の高齢化率は、約四十一%です。なんと半分近くが六十五歳以上。ひえ、えらいこっちゃまだまだ頑張らなアカンな。そうなんです。高齢者の皆さん！これから頑張るって貰わないとアカンです。今年の自治会新規加入は六世帯。引越などされたのが四世帯、プラス二世帯ではあります。新しく誕生した子どもはゼロ。結果、人口はマイナスです。これからどうなっていくのやら？ でもこれが現実です。このまま

だんだん町の人口が減り、元気がなくなっていくのが心配です。ある程度の人口減少が進むことはやむを得ない事かもしれませんが、急激な減少は食い止めていかなければなりません。最近、市外からの移住希望者が三世帯あり、千歳町にある空き家を現地案内しました。いずれの方々も自然が素晴らしい住んでみたいと言われます。しかし、空き家の広さや状態などから残念ながらいずれのケースも新規移住者とはなりませんでした。

都会からの移住希望者は、亀岡市の中でも千歳町の自然環境や近くに亀岡川東学園があることなどに魅力を感じ

ておられ、人気が高いエリアになっています。

この強みを生かして新規移住者の受け入れを積極的に進めていくことが、町を元気にしていくために大切なことと考えています。多様性を認め合い、人と人とのふれあいや絆を大切に子どもから高齢者までが住んでいて良かった、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを今後とも進めていきたいと考えています。

そして、来年は新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の中で、私たちの日常生活や自治会活動が取り戻せていくことを切に願うばかりです。

最後になりましたが、町民の皆様には健やかでよい年をお迎えになられますことをお祈り申し上げます。来年もどうぞよろしくお願ひします。

「柵田地域の指定に向けて」

全国にある貴重な財産である柵田を保全し、柵田地域の有する多面にわたる機能の維持増進を図っていくため、令和元年八月に柵田地域振興法が制定されました。

千歳町においても北谷区などには、美しい柵田が広がっており、同法の柵田地域の指定に向けた取り組みを進めていくこととなっています。柵田地域は、勾配が二十分の一以上の柵田が1ha以上連担しているものが対象になります。千歳町においては、中区・北谷区・出雲区・小口区がその候補地と



なりますが、地域としては千歳町全域を申請することになります。

令和二年九月十五日に同制度について、亀岡市から説明や指導を受け、自治会四役、区長及び千歳町常農組合役員、各区農家組合長で構成する千歳町柵田委員会（仮称）を十一月七日に開催し、申請書の内容を決定しました。

今後は、京都府知事から国へ申請書が提出され、承認されれば旧千歳村地域として柵田地域の指定を受けることとなります。次の段階としては、中山間地域等直接支払制度への手続きを進めていくこととなります。今後とも皆で力を合わせて地域の大切な農地をしっかり守っていきましょう。